公　表

令和元年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は，「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の平成29年8月号（第70巻第8号）から令和元年7月号（第72巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に，「獣医学術学会賞」は令和元年度獣医学術学会年次大会において発表された地区学会長賞の中から，「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から，選考委員会において厳正に審査され，令和元年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会における授与式において，本会藏内会長から本賞（賞状）が，協賛会社（日本全薬工業㈱，共立製薬㈱，日本ハム㈱）から副賞（研究奨励金20万円（目録））がそれぞれ受賞者に授与された．

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり．

令和元年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

獣医学術奨励賞：

「毛包を用いた免疫ペルオキシダーゼ法による牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の簡易検出法」

福成和博（岩手県中央家畜保健衛生所），他

〈選考理由〉 本論文は，現在野外で問題となっている牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）の持続感染（PI）牛を簡易かつ迅速に検出するために，牛の毛包材料を用いた免疫ペルオキシダーゼ法を新規に開発したものである．本法は，ウイルス分離やRT-PCRと同等の精度を有するばかりでなく，採材が容易な毛包を用い，安価かつ迅速にPI牛等のBVDV感染牛を検出することが可能であり，現場での応用が期待される優れた新しい手法を確立したものであることから，獣医学術奨励賞として推薦する．

獣医学術学会賞：

「次世代シークエンサーを用いた豚腸内細菌叢の16S rRNAメタゲノム解析」

藤井勇紀（茨城県県北家畜保健衛生所），他

〈選考理由〉 本研究は，次世代シークエンサーを用いて豚腸内細菌叢の16S rRNAメタゲノム解析を行い，健康豚と大腸菌症発症豚の糞便について比較検討を行ったものである．また，健康豚では離乳期，肥育前期，肥育後期及び繁殖母豚までのステージ間や農場間で細菌叢の構成と多様性が異なり，大腸菌症発症豚では健康豚に比べて*Escherichia*属菌の構成比が有意に高く，細菌叢の多様性は低いことを明らかにした．本研究は，豚の生産衛生向上に活用可能な新しいアプローチ法を提示し，今後の抗菌剤の使用低減などへの活用も期待されることから，獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する．

獣医学術功労賞：

「牛の生産衛生向上とその技術普及に関する臨床疫学的研究」

酒井健夫（日本大学・名誉教授）

〈選考理由〉 酒井健夫氏は，牛の生産衛生の向上を目的として，乳牛ケトーシスの診断治療法の確立と臨床疫学的研究，子牛下痢症の主要病原体の分子疫学的研究，牛乳房炎の病態解明や牛日本脳炎の血清疫学的研究などに取組み，リスク要因の制御によって疾病予防と生産性向上が達成できることを明らかにし，これらの研究成果を多くの学術雑誌に公表した．また，現在も一般財団法人動物看護師統一認定機構長を務めるなど，獣医学術の発展と後進の指導育成に尽力している．さらに，同氏は日本獣医師会の副会長及び理事として，本会と本会の学会の運営に長年にわたり多大な貢献をされたことから，獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した．

【小動物部門】

獣医学術奨励賞：

「一動物病院におけるセキセイインコのマクロラブダス症の臨床疫学調査」

平野郷子（グリーン鳥の病院・千葉県），他

〈選考理由〉 本論文は，国内におけるセキセイインコ392羽を対象としたマクロラブダス症についての詳細な疫学調査であり，病原真菌の陽性率，性差，年齢差以外にも症状や治療に関する臨床的に貴重な情報が多く含まれており，臨床的意義が高い．本論文は，今後のセキセイインコのマクロラブダス症への診断・治療にとって貴重な情報となることから，獣医学術奨励賞として推薦する．

獣医学術学会賞：

「犬の膀胱移行上皮癌に対して膀胱全摘出後に尿管を尿道／包皮／膣／腹壁乳頭に吻合した31症例（1998～2018）」

廉澤　剛（酪農学園大学），他

〈選考理由〉　本研究は，一般的治療によって制御不能な犬の膀胱移行上皮癌31例に対して，膀胱全摘術と演者の創意工夫による尿路変更術を実施するとともに，本手術が危機的な尿路閉塞を生じた症例を救出し，本症の根治の可能性を持つ外科療法であることを明らかとした．これらの結果は，今後の膀胱移行上皮癌に対する治療に極めて有用な情報提供となることから，獣医学術学会賞にふさわしい研究として推薦する．

獣医学術功労賞：

「獣医臨床における外科手術及び腎泌尿器疾患の診断・治療に関する研究」

大橋文人（大阪府立大学・名誉教授）

〈選考理由〉　大橋文人氏は，外科治療及び泌尿器疾患の診断・治療に関する研究に多大な功績を残すとともに，若手外科医の養成にも精力的に取組み，日本小動物外科専門医制度に尽力され，小動物外科分野における研究，教育の両面から小動物獣医学の発展に大きく貢献した．また，同氏は日本小動物獣医学会学会長，編集副委員長，その他，各種委員会委員なども歴任され，日本獣医師会の学術活動や運営に多大な貢献をされたことから，同氏への獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した．

【公衆衛生部門】

獣医学術奨励賞：

「養豚場における食肉検査結果の決定要因の主成分分析による解析法」

深江征雄（北海道根室保健所），他

〈選考理由〉　本論文は，27生産者，156,193頭の豚について搬入数，肺廃棄数，肝臓廃棄数，小腸廃棄数及び心臓廃棄数を生産者ごとに算出して主成分分析することにより，食肉検査結果の決定要因を解析できることを示した．本方法による多次元データの解析は，農場での衛生対策を立て，また，と畜検査で豚の廃棄臓器を減少させるうえで，家畜衛生と公衆衛生の両分野で有用な論文であると思われることから，本論文を獣医学術奨励賞に推薦する．

獣医学術学会賞：

「困難を抱える子どもへの動物介在活動による支援事業 ～長野県動物愛護センターの取り組み～」

浦野絵梨（長野県動物愛護センター），他

〈選考理由〉　本研究は，不登校やひきこもりなど社会生活を円滑に営むことが困難な子どもを支援する活動「子どもサポート」として目的別に構成された活動を実施するとともに，対象者，保護者，支援者を対象にしたアンケート調査や，ストレスの指標となる唾液アミラーゼ測定を対象者に実施し，活動の効果を客観的に評価している．この結果，家居の子ども全員が「子どもサポート」に参加可能となり，アンケート結果では参加者から好意的に受け止められ，多くの保護者・支援者からも本活動の高い効果が評価された．さらに，本活動への参加回数の増加にあわせて唾液アミラーゼの値が減少する傾向がみられ，科学的にも子どもたちのストレスが軽減していることを明らかにした．これらのことから，本活動は社会生活を円滑に営むことに困難を抱える子どもへの支援活動として高い有用性が示され，獣医学術学会賞にふさわしい研究であると判断されたので，ここに推薦する．

獣医学術功労賞：

「食品由来感染症における病原細菌学を中心としたわが国の食の安全確保」

山本茂貴（元国立医薬品食品衛生研究所・食品衛生管理部長）

〈選考理由〉　山本茂貴氏は，これまで食中毒原因細菌の疫学，病原性や病原因子の解明等，主に食品微生物学，食品衛生学を中心とした研究を精力的に行うとともに，獣医公衆衛生行政面では食の安全管理において多大な貢献をされた．また，同氏は平成14～29年度は日本獣医公衆衛生学会の副学会長，監事，幹事を歴任し，さらに平成20～28年度は東京地区，関東・東京地区学会長などを務めるなど，日本獣医師会並びに日本獣医公衆衛生学会の運営・学術活動に大きく貢献した．これらのことから，獣医学術功労賞を授与されるに相応しいと判断した．

左から，平野郷子氏，福成和博氏，藤井勇紀氏，酒井健夫氏，藏内勇夫（(公社)日本獣医師会会長），佐藤れえ子（(公社)日本獣医師会理事），廉澤　剛氏，大橋文人氏（代理），深江征雄氏，浦野絵梨氏，山本茂貴氏，黒田英一郎氏（日本全薬工業㈱），村上　博氏（日本ハム㈱），岩ヶ谷浩章氏（共立製薬㈱）